萬葉集略解 十五

内閣文庫
和書
類 一八二〇八
號
冊 三二
函 二〇〇
架 一八

内閣文庫
番號 和 18208
冊數 32 (24)
函號 200 141

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

萬葉集卷第十五

天平八年丙子夏六月遣使新羅國之時使人等各悲別贈答及海路之上慟旅陳思作歌并當所誦詠古歌一百四十五首○贈答歌十一首○秦間滿謌一首○暫還私家陳思歌一首○臨發之時歌三首○乘船入海路上作歌八首○當所誦詠古歌十首○備後国水調郡長井浦船泊之夜作歌三首○風速浦船泊之夜作歌二首○安藝国長門島船泊磯邊作歌五首○從長門浦船出之夜仰觀月光作歌三首

古挽歌

丹比大夫悽愴亡妻挽歌一首并短歌一首○屬物發思歌一首并短哥二首○周防国玖珂郡麻里布浦行之時

作歌八首○過大島鳴門而經再宿之後追作歌二首○
熊毛浦船泊之夜作歌四首○佐婆海中忽遭逆風漂流
著豐前国下毛郡分間浦追慟難作歌八首○至筑紫
館遥望本郷悽愴作歌四首（郷とく卿る誤）○七夕仰觀天漢各陳
所思作歌三首○海邊望月作歌九首○到筑前国志摩
郡之韓亭作歌六首○引津亭船泊之作歌七首（之の下夜或時の字を脱）
○肥前国松浦郡狛島亭船泊之夜作歌七首（狛とく怕る誤）

挽歌

到壹岐島雪連宅滿死去之時歌一首（并短歌二首）○葛
井連子老作歌一首（并短歌二首）○六鯖作歌一首（并短
歌二首）○到對馬島浅茅浦船泊之時作歌三首○竹敷
浦船泊之時作歌十八首○回来筑紫海路入京到幡磨

万葉十五目　一

国家島作歌五首○中臣朝臣宅守娶蔵部女嬬狹野茅
上娘子之時勅斷流罪配越前国也於是夫婦相嘆易別
難會各陳慟情贈答歌六十三首（契沖云嬬の上更の字脱るう嬬々嫂る誤）○臨別娘
子悲嘆作歌四首○中臣朝臣宅守上道作歌四首○至
配所中臣朝臣宅守作歌十四首○娘子留京悲傷作歌
九首○中臣朝臣宅守作歌十三首（守作とく作守る誤）○娘子作歌
八首○中臣朝臣宅守更贈歌二首（二とく三る誤）娘子和贈歌
二首○中臣朝臣宅守寄花鳥陳思作歌七首（寄とく奇る誤）

遣新羅使人等悲別贈答及海路慟情陳思并當所誦詠之古謌　目録ニ天平八年丙子夏六月遣使新羅国之時使人等ニ[illegible]ト有、陳思の下作歌二字ヲ、後紀同年閏月丙寅遣新羅使阿倍朝臣継麻呂等拜朝、同九年正月辛丑遣新羅使大判官従六位上壬生使主宇太麻呂少判官正七位上大蔵忌寸麻呂等入京、大使従五位下阿倍朝臣継麻呂泊津島卒、副使従六位下大伴宿祢三中染病不得入京ゝゝゆ

武庫能浦乃伊里江能渚鳥羽具久毛流伎美乎波奈禮豆古非爾之奴倍之

むこのうらのいりえのなぎとりはぐくもるきみをはなれてこひにしぬべし

武庫ハ摂津、渚ハ水ハタ洲ニ居ルヲ云、羽ぐくもるハ、子の雛ヲ羽ぐくむ、ハ子の雛

大船爾伊毋能流毋能爾安良麻勢波羽具久美毋知氐由
可麻之毋能乎
おほぶねにいものるあのふあらませばたゞにみそちくゆのまーそのを
夫の〻〻〻〻
君之由久海邊乃夜杼爾奇里多多婆安我多知奈氣久伊
伎等之理麻勢
きみがゆくうみべのやどにきりたたばあがたちなげくいきとしるませ
妻の答うた、神代紀吹棄氣噴之狭霧とあり、岩立大也、きりとは
わがちなげくおきそのかぜよりきたるなり
秋佐良婆安比見年毛能乎奈爾之可毋奇里爾多都倍久
奈氣伎之麻左年
あきさらばあひみんものをなにしかもきりにたつべくなげきしるさん

万解十五　三

歌ヲ敵ニ誤

字ヲ字ニ誤

夫の答うた、むさなくふ吟味まくおもふ人をたづねあひ
大船乎安流美爾伊多之伊麻須君都追年許等奈久波也
可敵里麻勢
おほぶねをあるみにいたしいますきみつむことなくはやかつりませ
妻の答うた、あるみハあらうみを行く、伊多之の多一字太よ似るゆへ
いまをハ往まをとつむとうたくバ岩を三てみちくきくいまして、岩三るまで
みやまひあらせそもそよりあ、岩をせりうあるめやといつるはなり
眞幸而伊毛我伊波伴伐於伎都奈美知敵爾多都等毋佐
波里安良米也毋
まさきくて、いもがいはばおきつなみちへたつともさりあらめやも
夫の答うた、妻の幸くをいはゝ、おきつなみ、たつともさりあらめやも
和可禮奈婆守良我奈之家武安我許呂毋之多爾乎伎麻

勢多大、爾安布麻呂爾

わのれおぐらがなーくん、あぐごろも、たてまつりきこえせたてふあまでふ

妻の名ハ、あぐら君、たてまつりをのことハ、脚帯

和伎毋故我、之多爾毛伎余等、於久理多流、許呂毋能比毛

辛、安禮等可、采也毋

わぎもこの、たてまつりをきよとぶくりるころものひもをあれとのめやも

夫の名ハ、宗岳之多弖毛の毛ハ平の清くといふ、あれハ我

和我由惠爾、於毛比奈夜勢曽、秋風能、布可武曽能都奇、安

波牟毋能由惠

わのゆゑに、おもひなやせそ、あきのぜの、ふかんそのつき、あうんものゆゑ

夫の弟、ちのくの国の渡、ちるまるれ、あくんものゆゑハ、あうんものゆゑ、ふとりまさる

多久夫須麻、新羅邊、伊麻須、伎美我目乎、家布可、安須可登、

伊波比豆麻多牟

たくふすまたまたまくらきえいまあすきみがめをけつのあたりのといをしてまくん

妻の名ハ、たくぶすまたまの枕詞、初尾くのハえのく、後ベしいまそハ、代まちをく、夫

の国ハ、あくるるをとり

波呂波呂爾、於毛保由流、可毋之可禮杼毛、異情乎、安我毛

波奈久爾

はろばろに、おもほゆるかも、たのれどもけきこいるとあがもはなくに

をろくハ、ちるくくくきハ、あぐーくをとりる国ハ、ちハ、ちるくのハの国ハ、

ちく敬く詞、そも妻の名ハ、

右十一首贈答

由布佐禮婆、比具良之、伎奈久、伊故麻山、古延豆曽、安我久

流、伊毛我目乎、保里

ゆきてはひぐらしきまくいこまやまこえてぞあがくるいもがめをちかみ
難波の浦より船をもるおなじ屬の里へゆくよそるの歌八首はすべて
風俗をもるなり奈良人ゆくゝ時をもるべし
右一首秦間滿　此夫は秦田滿あるゝ間八田の浦の八末の田八間の浦
このいづれも文字あらそふべきなる語なるまく同人なるべし
伊毛爾安波受安良婆須敝奈美伊波禰布年伊故麻乃山
乎故延豆曽安我久流
いもあはずあらばすべなみいこまのやまをこえてぞあがくる
こは大和にゆく日人のよるるなるべし
なにはゆくと伊勢山の雲根とよるるなるべし
右贈還私家陳思
妹等安里之時者安禮杼毛和可禮豆波許呂毋豆佐年伎

毋能爾曽安里家流
いもあはずあらばときはあれども わかれてはこころかなしきものにぞあるる
ゆくとこそ人はいへどあるゝものをこそ
海原爾宇伎禰世武夜者於伎都風伊多久奈布吉曽妹毛
安良奈久爾
うなばらにうきねせんよはおきつかぜいたくなふきそいもあらなくに
大伴能美津爾布奈能里許藝出而者伊都禮乃思麻爾伊
保里世武和禮
おほとものみつにふなのりこぎでゝはいづれの島にほりせんわれ
大友の旅人
右三首臨發之時作歌
之保麻都等安里家流布禰乎思良受豆久夜之久妹乎

和可禮伎爾家利
志ほまつとありてるゝねを志てゝぞてくやゝくいもをわのれきこゆけゝ
かく濃紫くゝとゞまりなんと志てゝば紫ふ良るを之べきものをゝ
安佐姚良伎許藝豆天久禮婆年故能宇良能之保非能可
多爾多豆我許惠須毛
あゝびらきゝゝきでゝくれゞむこのうゝの志ちゝのうゝ亦たづゝごと毛
多びゝきゝふあゝゝを毎と爪くゝとゝふ良の名保ゝけと八爪ゝ
和伎毋故我可多美爾見年乎印南都麻之良奈美多加彌
與曾爾可毋美年
わぎゝとゞかゝくゝみゝゝんをいもみづゝま志てゝわゝみたゝゝしゝよゝてゝふゝもゝん
巻三印南都麻　ゝゝみをるゝく、志六伊奈美嬬幸荷の歌とよめり、播
磨の印南ゝくゝつま八都八助郡、麻八島の墨江なゝんと名ゐ志れき、或

人の説ゝ好忠集ゝ、さゝきづまゝそのきさゝせのまゞとゝ、えゝさゝ氏の志ゝ
ざなゝゝもとよめるゝさゝきハ近江の地名ゝ、されバつまハ志ゝあゝゝ、いゝます
ゝ志いゝゝ、こハ妻志ゝよりづゝのゝゝ志ゝゝゝ、この志ハあゝゝの方の下ゝと
ざゝ妹ゝの形ゝゝ、ゝんを、立流のよゝゝる毎ゝゝる歌ゝん、さゝく妹ゝがゝみゝと
いゝよゝゝつまをかゝれゝるなゝん
和多都美能於伎都之良奈美多知久良思安麻千等女等
毋思麻我久流見由
わゝづゝみのおきゝつゝしらなゝゝたちゝくゝゝ、あゝまゝとゝあゝゝ、志まがゝるゝみゝゆ
あゝゝのを毎の爪ゝよゝのくゝゝをゝんゝくゝゝあゝゝ
奴波多麻能欲波安氣奴良之之多麻能宇良爾安佐里須流
多豆奈伎伎和多流奈奈里
ぬゝゝゝまのよゝあゝぬゝゝ、たまゝのゝゝゝふあゝゝゝ

契沖云考ル紀伊国ノ名ニ、わのこゝろ嶋よりあハさでむの浦よりとゝれど、此玉浦
ハ次下の三ツ備中備後の名なれバ、これハ備前の名なるべし、此考下ニも
たまの浦をよみ、さきもの国防国玖珂郡麻里布浦行之時作歌ハ首にあれ
バ安芸ニよめりといへど、これも必国の次でよむべきなり、あゝどといへ共考べ
月余美能、比可里乎伎欲美、神島乃、伊素末乃宇良由、船出
須和、禮波
つきよみのひのゆきよみかゝ、まあいそまのうらゆゝしなみ、たゝとれた
月よみをそ別月ニ神名ハ神名帳備中小田郡神島神社あり、そこなるべし、
いそまのうらハ磯のうらまなどゝよみ、浦をいふ、考十三備後国神島濱調使首
見乾作歌と端書ある歌をハ備中と備後と誤ることゝ契沖いへり、船出
出ハ此浦よりこぎめぐる歌ニ、船出をまゝ漕出
るとゝ

波奈禮、蘇爾、多多氐、流、牟漏能木、宇多我多毛、比左之伎時乎、
須疑、爾家流、香母
はなれそ、たてるむろのきゝ、むろがゝもひとゝきをとまてぎふなるかも
むろの木ハ檀ニ、考三鞆の浦の磯の宰のまとよめり、別備後の鞆の浦ニて、
此ものれそ、よめるも同じ所なるべし、うゝがゝハ考十二うゝがゝもしら
つとゝのとよめりそこなる考ニ、くせうあやまきをこゝろ、ゝく離れしる
磯ぎよあやまげよ手折くゝ、おくゝるまをとゝろくゝ、ゝくゝ、ゝくゝ
あれハをつる海ゝ、ふとれるゝ、
之麻思久母、比等利、安里宇流、毛能爾安禮也、之麻能牟漏
能木、波奈禮豆、安流良武
たまくしげ、ゝくゝ、ゝくゝ、ゝくゝ

右八首乗船入海路上作歌

當所誦詠古哥

安乎爾余志奈良能美夜古爾多奈妣家流安麻能之良久
毛見禮杼安可奴加毛

あをによしならのみやこにたなびけるあまのしらくもみれどあかぬかも

ゆきのよりふりかすみたちはるのかぜはなにさそはれてにほひきにけり

きよつけく酒しるしるとまをしまを山の辰の白雲動よけるつねにあれども見づ

らやまぎみとよめるよ所にて

右一首詠雲

安乎楊疑能延太伎里於呂之湯種蒔忌忌伎美爾故非和
多流香母

あをやぎのえだきりおろしゆだねまきゆゆしききみにこひわたるかも

柳の枝をきりおろしてゆだねまく田のかりいとなりてなげかばいかに妻をもとめむ

いとなりてなげかばいかに妻をもとめまくあらきのをのをのを

わたつみのうみよりいでくる[illegible]
いづとふくく[illegible]
いとうぶ[illegible]二人のこの天つ[illegible]

右三首戀歌

多麻藻可流乎等女乎須疑氏奈都久佐能野島我左吉爾
伊保里須和禮波
たまもかるをとめをすぎてなつくさのぬしまがさきるいほりする[illegible]
柿本朝臣人麻呂歌曰敏馬乎須疑氏又曰布禰知可豆
伎奴

此[illegible]

之路多倍能藤江能宇良爾伊射里須流安麻等也見良武
多妣由久和禮乎

[illegible]
柿本朝臣人麻呂歌曰安良多倍乃又曰須受吉都流安
麻登香見良武
安麻射可流比奈乃奈我道乎孤悲久禮婆安可思能門欲
里伊敝乃安多里見由
あまざかるひなのながぢをこひくれば[illegible]
柿本朝臣人麻呂歌曰夜麻等思麻見由
考三ほなぐちゆゝしくあり　從
武庫能宇美能爾波余久安良之伊射里須流安麻能都里
船奈美能宇倍由見由
むこのうみのふかよくあらしいざりする[illegible]
柿本朝臣人麻呂歌曰氣比乃宇美能又曰可里許毛能

美太禮氏出見由安麻能都里船

安胡乃宇良爾布奈能里須良牟乎等女良我安可毛能須素爾之保美都良武賀

あごのうらふなのりすらむをとめらがあかもの裳すそ干すらむ

柿本朝臣人麻呂歌曰安美能宇良又曰多麻毋能須藪爾

雖一鳴呼見乃浦を見ハ児の語るく志摩の海人の子ら

らは安胡とそ呼れそ古ハ信ハ真にそれハ海人の子とそ

なるらしき

七夕歌一首

於保夫禰爾麻可治之自奴伎宇奈波良乎許藝豆天和多

流月人乎登拾

おほぶねにまかぢしぬきうなばらをこぎでわたるつきひとをとて

右柿本朝臣人麻呂歌

此三の歌ハ万葉集の七夕三十八首にあるなり

牛をよめるとしるしたる使人の海波をわたるなり

又ハ月人をとこハ月のくゝ海の月を飾るこのちをと海を牛の

ゆくなりとして七夕にかゝ海をわたるなり

備後國水調郡長井浦船泊之夜作歌三首

安乎爾與之奈良能能美也故爾由久比等毛我毋久佐麻久

良多姚由久布禰能登麻利都礙武仁　旋頭歌也

あをにより奈良のみやこにゆくひともがもくさまくらたびゆく

ふねのとまりつげんは

水調和名抄ニハ御調ニテ、海路ヲクダル奈良ノ都ヘ引人モ書ナバ我舟
の泊ルマヲ告ヤランモノヲ

右一首大判官　壬生使主宇太麻呂

海原乎夜蘇之麻我久里伎奴禮杼毋奈良能能美也故波和
須禮可禰都毋
うなばらをやそしまがくりきぬれども ならのみやこはわすれかねつも

八十島ハ海路ヲ行ヲクノ名ニテ所ノ名ニ
ヲ行ヲ都ノ名ニ所ノ名ヲ
可敝流散爾伊毋爾見勢武爾和多都美乃於伎都白玉比
利比弖由賀奈
かへるさに いもにみせむに わたつみの おきつしらたま ひりてゆかな

拾遺ニ入ル

風速浦舶泊之夜作歌二首　和名抄安藝高田郡風速ヲ

和我由恵仁妹奈氣久良之風早能宇良能於伎べ敝爾奇里
多奈妣家利
わがゆゑに いもなげくらし かぜはやの うらのおきべに きりたなびけり

おきべハ沖ヲ辺ニ上ル者ノ中ハ辺ノ字ヲ書ベキ
ヲ下ル者ヲ中ハ辺ノ字ヲ書ベシ

於伎都加是伊多久布伎勢波和伎毛故我奈氣久伎能奇里
爾安可麻之毋能乎
おきつかぜ いたくふきぬ わきもこが なげくきのきり にあかましもの

ふぐ者ハ風ノ起ル方ニ伎ヲ立ル者ノ名ニ、そもそもの是
ノ行ヲ中ノ字ヲ書ベシ、二首ハ同じ人ノ作ナルベシ

安藝國長門島舶泊磯邊作哥五首

伊波婆之流多伎毛登抒呂爾鳴蟬乃許惠乎之伎氣婆京師之於毛保由

いそぐしるたぎてしどろよなくせみのこゑをきけばみやこおもほゆ

塔の峰山を爲とよめるなるべし

右一首大石蓑麻呂

夜麻河泊能伎欲吉可波世爾安蘇倍抒毋奈良能能美夜古波和須禮可禰都毋

やまがはのきよきかはせにあそべどもならのみやこはわすれかねつも

磯辺川のほとりなる陵を的泊せしなるべし

伊蘇乃麻由多藝都山河多延受安良婆麻多毋安比見年秋加多麻氣氐

いそのまゆたきつやまがはたえずあらばまたもあひみんあきかけまたて

いそのまゆは石間從之ゝ水の流るゝを山川ふりよせしれば絶ずとの下句、山川のめぐりをとめぐりを、今幸くば

山水のゝ流れをとりつゝ枕のまくらとよめるなるべし、流るゝはゆくなり、さらばあれば、

故悲思氣美奈具左采可禰氐比具良之能奈久之麻可氐氣爾伊保利須流可毋

こしぐしみなぐさかねてひぐらしのなく山ごとにいほりするかも

志の字をふくゝよのはきりせる遊びとよめるなるべし、何ゝとなり

かくしよめる歌

和我伊能知乎奈我刀能之麻能小松原伊久與乎倍豆加可武佐備和多流

わがいのちをながとのしまのこまつばらいくよをへてかんさびわたる

老木の松をうゑて、もとハ小松原なりけるを、さて小
松の世ゝを経て古びゝるゆゑ、書名ともかねいきつゝ

従長門浦船出之夜仰観月光作歌三首　安芸の長門の道ゝ

月余美乃比可里乎伎欲美由布奈藝爾加古能古恵欲妣
宇良末許許具可毋

つきよみのひかりをきよみゆふなぎにかこのこゑよびうらまこぐかも

伎敝の下の美一かゝ見る化るかゝハ水手、次ものいふ

山乃波爾月可多夫氐氣婆伊射里須流安麻能等毛之備

伎爾奈都佐布

やまのはにつきかたぶけばいざりする あまのともしび おきそまづさし

山のそハ山の端なり、山際とかるゝハ見えなくなる、此のとのゝふ

のみいつゝ

古ヲ右二誤

敝ヲ敞二誤

和禮乃末夜欲布禰波許具登於毛敞禮婆於伎敞能可多
爾可治能於等須奈里

わしのみやよふねはこぐとおもへれば おきべのうらふかぢのおとすなり

古挽歌一首并短歌　そし代時母の母まく通したるもの、古

ゝ本右よ誤る、古多ゆゑて改

由布佐禮婆安之敞爾佐和伎安氣久禮婆於伎爾奈都佐
ゆふされば あしへにさわぎ あけくれば おきにふなづさ
布可毋須良毋都麻等多具比呂和我尾爾波之毛奈布里
ふかもすらも つまとたぐひて わがをには まれにふなし
曽等之路多倍乃波禰左之可倍氐宇知波良比左宿等布
そとしろたへの そねさしかへて うちはらひ さぬとふ
毛能乎由久美都能可敞良奴其等久布久可是能美延奴

そのをゆくみづのかへらぬごとく、ゆくへのみえぬ
我其登久安刀毛奈吉與能比登爾之豆和可禮爾之伊毛
のごとく、あとしなきよのひとをーてわのれおもいも
我伎世豆思奈禮其呂毋蘇豆加多思吉氐比登里可毋禰
のきせてーなれぐろもそでかるーきてひとりのしね
牟
む

白このさねさといふれば、この可毋餘をいつるの又素の変るみよりく
かくいつるあれ、ねさーのてうちそらひはるをけそらひてき
かへてのさね、巻三照の比のいまはめぐれるかもとくらむものうつひとり
称ちくよ、巻九場むのとときの比るかもでたねざるおのの尾ふみう
おてるちをけ上ちるーきそ、さあとーとのとは、さん数ほうそ、

万解十五　十四

夜ふさいふこのをえ、約束のうてこめごとく、巻十九悪世間無常長寿よ
逝水のとまらぬかくこもよあり、なれ云ハ名稼（十ラ）する衣をとて、巻十沼東風
うく次よりいつまでの衣ふーきわのひとりねん

反歌一首

多都我奈伎安之敝乎左之豆等妣和多類安奈多頭多頭
志比等里佐奴禮禮奴

たづのなきあしべをさーてとびわたるあなたづーしひとりさぬれ
上ハ鶴の鳴べをさーて飛て飛渡るをかくひく、さてそえるおをんくたづ
たづーといふん序とせり、源氏物語須磨ハ、たづの鳴をきあはれ
をそ、ちくとよあるハ、鶴よりもなきことを乗くるみくこと、ハ天ん
しづーハ巻ハあーこのあれ多頭ーしーハ巻下ちやこハ道ーづくーしーちづ
いとくたづりくーきこ源氏物語古帖ちーどくーしーこいふくーハ味ちくて

よりあなきんちちとるえ

右丹比大夫悽愴亡妻歌

屬物發思歌一首弁短歌

安佐散禮婆伊毛我手爾麻久可我美奈須美津能波麻備
あさくれはいもがてかまくかがみなるみつのはまべ
爾於保夫禰爾真可治之自奴伎可良久爾爾和多理由加
ふねほぶねかまかぢまぬきからくにわたりゆか
武等多大牟可布美奴面乎左指天之保麻知豆美乎妣伎
むとたづむこふみぬめをさしてしほまちてみをびき
由氣婆於伎敝爾波之良奈美多可美宇良末欲理許藝豆
ゆけばおきべにはしらなみたかみうらまよりこぎづ
和多禮婆和伎毛故爾安波治乃之麻波由布左禮婆久毛

わたれはわぎもこふあちのしまかゆふされはくも
為可久里奴左欲布氣豆由久敝乎之良爾安我已許呂安
ゐかくりぬさよふけてゆくへをしらにあがこころあ
可志能宇良爾布禰等采豆宇伎禰乎詞都追和多都美能
かしのうらにふねとめてうきねをしつつわたつみの
於枳敝乎見禮婆伊射理須流安麻能宇等女波小船乘都
おきへをみれはいさりするあまのをとめはをふねのりつ
良良爾宇家里安香等吉能之保美知久禮婆安之辨爾波
ららにうけりあかとときのしほみちくれはあしへには
多豆太奈伎和多流
たづなきわたる

時の[illegible]おまくハ後よ紐あわてそれを[illegible]ハ之ハ美ハ雅波の御清

[illegible]
又八浦はの湊のわたり、後のみくに九のうしたるべし、宮もち後たるべ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
命ゝ参上来留客等参近奴、水脈毋敝遵賜幣宣随ゝ迎賜幣久
宣ゝ[illegible]、水茎と道行ゝ、ゆきてあまたの路、吉姉子ゝ遠
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
安左奈藝爾布奈豆乎世牟等舩人毛鹿子毛許恵欲妣柔

敝ヲ敝ニ誤

あさなぎよふなでをせんとふなびともかこもとよびふ
保等里能奈豆左比由氣婆伊敝之麻婆久毛為爾美延奴
ほどりのなづさひゆけばいへしまはくもゐふみえぬ
安我毛敝流許巳呂奈具也等波夜久伎豆美年等於毛比
あがもへるこころなぐやとはやくきてみんとおもひ
豆於保夫禰乎許藝和我由氣婆於伎都奈美多可久多知
てをほぶねをこぎわがゆけばおきつなみたかくたち
伎奴與曽能未爾見都追須疑由伎多麻能宇良爾布禰乎
きぬよそのみみつつすぎゆきたまのうらふねを
等杼米豆波麻備欲里宇良伊蘇乎見都追奈久古奈須禰
とどめてをまびよりうらいそをみつつなくこなすね
能未之奈可由和多都美能多麻伎能多麻乎伊敝都刀爾

のみーなこのゆ・わくつみの・たまきのたまを・いへづとに・
伊毛爾也良年等・比里比等里・素豆爾波伊禮豆・可敝之也
いもふやらんと・ひさひとゆ・そでふいれて・かへ〜やし
流・都可比奈家禮婆・毛豆禮杼毛・之留思乎奈美等・麻多乎
る・つこのひなければ・かてれども・ふる〜をなみと・まくお
伎都流可毛
きつるこのも

鹿る八俤字まく水手く、和名抄舟子水手附文選江賦云舟子布奈古、
かこ八檝子こ、みぶねの梶司、なづまよ八つる出、いに時八侯後紀第九播磨撰
保郡家島とて、岩口そこの家の為あるそのくふとよりつ、心なぐやく八
心なぐさむやとく、おきわのゆけば八傳く秋ゆけば、たまの浦八とる出、
なくるなる八注るのゆくく、岩とるくるなる岩ひまきてと・こそつ、

なこのゆ八所注こ、わこつみ八海神、たまきハ手纏くく、刑釧こ、宮出の方る記
伊ゆとる八仁徳紀田道と云人の妻夫と戦て死りける時有従者取特田道之
手纏与其妻乃抱手纏而縊死、三代実録貞観十二年の時る勅元壹岐島曹
弄手纏各二百具、和名抄鐲多ま一云小手也、まくとて腕よりいと小くのゆく
ある物くきくこそ、又毛を手結とくこそ、岩三丈夫の手結の浦
とでくこそ、又ゆ岩こわこみのくまきこそ、ゆぐをきこそ、
ゆまこそ、ひさひ八拾ひこ、とこそ出、妹るやこんとをを拾ひれば、海辺ようう
こそづてやこぐき使のゆくれば、拾ひれば、かひるくこて、こそをこみりとの
まこふおきこること

反歌二首

多麻能宇良能・比乎伎都之・良多麻・比利敝禮杼・麻多曽於伎
都流・見流比等乎・奈美

たまのうらのおきつもなみまくらとねがまくそでおきつるしらなみ

右歌八別時とりよ

安伎左良婆和我布禰波豆牟和須禮我比與世伎豆於家

禮於伎都之良奈美

あきさらばわがのふねをそこわもねのしよせきておくしおきつなみ

右歌八海沙門道昭在唐之時作之

周防國玖珂郡麻里布浦行之時作歌八首 鞆生人作歟之

真可治奴伎布禰之由加受波見禮杼安可奴麻里布能宇

良爾也杼里世麻之乎

まかぢぬき.ねーゆのぞみれどあかぬまりふのうらにやどりせまをを

ゆふりゆうるなるなみのうとゝ年人ゝ年を誤

伊都之可毋見年等於毛比師安波之麻乎與曽爾也故非

無由久與思乎奈美

いつーしかもみんとおもひしーあはーまをとおてにやとしんゆくりをなみ

あはーまハ岩三岩ロ岩七岩十二ものゝ岩九ハ粟の小島とよめり

大船爾可之布里多豆天波麻藝欲伎麻里布能宇良爾也

杼里可世麻之

おほぶねにかーふりてーはまぎよをまりあうらにやどりうせまし

岩七毎ものーかーふりてーとよめり、かーハ舟つなぎ杭之略よいろ

安波思麻能安波自等於毛布伊毛爾安禮也夜須伊毛禰

受豆安我故非和多流

あはーまのあはーどとおもふいもあれやーもいねずてあがこひわたる

妹ゝ世りつゝあるなーべ多ものゝ世ゝ世ゝ世

筑紫道能可太能於保之麻思未志久毋見禰婆古非思吉
伊毛乎於伎豆伎奴
つくしぢのかだのおほしまをまくもみねばてひきいもをおきてきぬ
周防の大島郡あれば可太も同郡の統名の道なれば筑紫道といふなり
しるとうろてをまくとうろをまくもは皆こと
伊毛我伊撥治知可久安里世婆見禮杼安可奴麻理布能
宇良乎見世麻思毛能乎
いもがいはぢちかくありせばうらをみせましものを
伊撥姚等波可撥里波也許等伊波比之麻伊波比麻都良
年多姚由久和禮乎
いへびとかつわれやといはひまつらんたびゆくわれを

いはひまつらも玖珂郡のかつもとは早鞆あり之、そこの名ようる
こと斎祭とらひて〜〜をを
久左麻久良多姚由久比等乎伊波比之麻伊久與布流未
豆伊波比伎爾家年
くさまくらたびゆくひとをいはひまつるまでいきふりんと
苦より拵約人と代理するまで離れりて後の名度りんとを
過大島鳴門而經再宿之後追作歌二首　周防大島郡の海之
巨禮也已能名爾於布奈流門能宇頭之保爾多麻毛可流
登布安麻乎等女杼毛
こしやこのなほなるとのうづしほにたまもかるとよあまをとめども
これやこのいにしやかたるとのうづしほに玉藻かるとよあまをとめども
いにしへうづるうづしほにいにしへをきこえきこえしかたるうづしほの盈虧する時水を

るくなるとうづ彼とらをゝ、宣ちうづはうづまさのうづと一つゝ、こるきさと
とさこゆ、ち化雄略十五年記聚秦民賜於秦酒公、公仍領率百八十種勝奉獻
庸調御調也、指繍充積朝庭、因賜姓曰禹豆麻佐（一云禹豆毋利麻佐皆盈積之貌也）こゝみなと
いつゝ、このうこきはゝく薩州こゝりつるとさまゝゆ及ゝとゝ、そゝそ
ゆくゝよゝるこ

右一首田邊秋庭

奈美能宇倍爾宇伎禰世之欲比安杼毛倍香許已呂我奈
之久伊米爾美要都流
ゐみのうへゝうきねせゝよしあどもへおこゝろぼちゝくゝあゆみえつる
巻十四安杼毛歌可あゝゝよしのゆづるゝゝゝゝ同ゝくあゝゝゝ
伊ゝゝへゝのゝゝ杼の間ゝのゝゝを用ひられゝ誘（イモラ）ゝゝゝゝゝ
まゝわゝゝるゝゝゝゝゝ

おきべよりみちのくにかくのうらにあさりもとづきてさわぎぬ
かくの浦ハ筑前韓泊なり、もつまおちよりとのを一里程なりとぞ
於吉敝欲里布奈妣等能煩流與妣與勢呈伊射都氣也良
年多婢能也登里乎
れきべよりふちびとのぼるよびよせていそつけやらんたびのやどりを
一云多妣能夜杼里乎伊射都氣夜良奈
舟人なりけるなかくしあしとなるこんきをやらんとな
佐婆海中忽遭逆風漲浪漂流經宿而後幸得順風到著
豐前國下毛郡分間浦於是追怛艱難悽惻作歌八首
和名抄周防佐波郡 伎美 豐前上毛郡 美介 下毛 しもつけ 上毛
ふかぐ、分間浦ハそし下毛郡なるべく、分間をまとともわまとともとぞ
於保伎美能美許等可之故美於保夫禰能由伎能麻爾末
爾夜杼里須流可毋
おほきみのみことかしこみおほぬのゆきのまふ〳〵やどりするかも
大船の漕ぐこれ行まうこ
右一首雪宅麻呂 下ゑ雪連宅麻呂とあり、雪ハ壹岐氏なるべし、和名
抄ゑ壹岐由伎とあり
和伎毛故波伊也毋許奴可登麻都良年乎於伎爾也須麻
年伊敝都可受之呈
わぎもこいちやもとぬのとまつらんをおきてやとやんいへづのぞして
妹ハあくまれ〳〵なるべきと、あるよを明ぬとして、海路よりの月日と程と
いへんれるをづくを条中秋冴とあるなり
宇良末欲里許藝許之布禰乎風波夜美於伎都美宇良爾
夜杼里須流可毛

うゝまよりこぎてゝふねをかぜさやこゝやきつみゝふやどりするかも

おきつみゝ〜八神中の略の浦へとうゝのゝ八生のことゝ

和伎毛故我伊可爾於毛倍可奴婆多未能比登欲毛於知受伊采爾之美由流

わきもこがいかりへのぬばたまのひとよもおちずいめにみえゆる

いのゝ神をゆくべのゝ

宇奈波良能於伎敝爾等毛之伊射流火波安可之豆登毋世夜麻登思麻見無

うなばらのおきべにとをしいざるひはあかしつとむやまとしまみむ

仲方の浦をゆく夫をゆくとをとをしらくゝ次ゆきまあの一名矣とゝりやまと

ゝまいまこゝやまとゝまはゝとよをゝ

可毋自毛能宇伎禰乎須禮婆美奈能和多可具呂伎可美

爾都由曽於伎爾家類

かをゝあうきねをすれば水のわたかぐろきさうみよつゆでおきなをする

かがゝをのゝくゝ拾遺

比左可多能安麻豆流月波見都禮杼毋安我毋布伊毛爾

安波奴許呂可毛

ひさかたのあまてるつきはみつれども あぶくこゝろのもしれどもゝ

しれどもゝ能見ゝ月はゝゝれども思ひ過ぬるとゝの又満れどもゝ

日数のかさなることゝもあんこの

奴波多麻能欲和多流月者波夜毛伊豆奴香文宇奈波良能夜蘇之麻能宇倍由伊毛我安多里見牟　旋頭歌也

ぬばたまのよわたるつきはやもいでぬかもうなばらのやそしまのうへゆ

いでぬあたりをみむ

いそぎぬてへいよりて

至筑紫舘遥望本郷悽愴作歌四首

之賀能安麻能一日毛於知受也久之保能可良伎孤悲乎
毋安禮波須流香毋

きのあまのひとりもおちずやくきのほのかにきこしをもあれかもか

きのへ岩ちよ岳、筑紫糟屋郡にあり、筑紫鹿坂ともいふべし、六

かゝきしのくん序のこ

思可能宇良爾伊射里須流安麻伊敝奴等能麻知古布良
牟爾安可思都流宇乎

きのうらにいざりするあまいとびとのまちこふらんかあのつるをも

あまへは海人のいへひとつ、あのつるをもゆゝしくて、然を吹くも

しく泊をきしりて、然はみゝとのふよりくるゆゑん限りあるよ結ぶる人

あるとも、えゐ泊りきゝあよいはのぐんのよりちるふかあの結んをもとらぬ

ゑよりて、我こゝよりよりくるこゝはあのつるかゝをもこゝろ結ぶをもおもひぐよりの

あのつてをゝをやゝとゞまりくんゆとよりるとおもんいさふかあゝぐゝとろう

可之布江爾多豆奈吉和多流之可能宇良爾於枳都之良
奈美多知之久良思毛

かゝぶえにたづなきわたるきのかのうらにおきつしらなみたちしくらしも

のぶに知のゝ、きのの海はきかのあり同じ、たちくらは立重らまて、

もはらぐる詞のゝ

一云美知之伎奴良思

みちゝきは滿重ゝ

伊麻欲里波安伎豆吉奴良之安思比奇能夜麻末都可氣
爾日具良之奈伎奴

いまよりはあきづきぬらしあしひきのやまつのげよひぐらしなきぬ

七夕仰觀天漢各陳所思作歌三首

安伎波疑爾爾保敝流和我毋奴禮奴等毋伎美我美布禰能都奈之等理豆婆

あきちぎりふかくほるわがもぬれぬとも きみがこゝろあはのつきとてこば

わがもハあきぎりにぬれぬとも きみがこゝろあはのつきとてこば

たちバ芽子よはなちハせ　紫ハよめぬまもりてもさぎしんとも

右一首大使

等之爾安里豆比等欲伊毋爾安布比故保思毋和禮爾麻佐里豆於毛布良宋也毋

とゝふあはてひとよいもふあひてぼもわれもまさをもておもふらめやも

一年ちなるゝくゝ

由布豆久欲可氣多知與里安比安麻能我波許具布奈妣

等乎見流我等毋之佐

ゆふづくよかぐたちよりあひあまのがはこぐふなびとをみるがとをしも

夕月の影にうつろひ波れどゝ　天の川なる星の影ゝまもれば

づゝきゝつゝふるびとゝハるる　光ををつ

海邊望月作歌九首

安伎可是波比爾家爾布伎奴和伎毛故波伊都登加和禮乎伊波比麻都良宋

あきのぜハひふけよあきぬわぎもこハいつとかまつらん

大使之第二男

可牟佐夫流安良都能左伎爾與須流奈美麻奈久也伊毛爾故非和多里奈牟

うんさぶるあらつのさきるよするなゝまなくやいもこひわたらん

和名抄流前宗像郡小荒大荒の二ところ、そのまさて上代よりもちて紀伊ゆ
祢をぶるとそるこの上に召ちくしいそんかゝのゝ

右一首土師稲足（ハニシノイナタリ）

可是能年多與世久流奈美爾伊射里須流安麻乎等女良
我毛能須素奴禮奴

かせのむたよせくるなゝふいぞりするあまをとめらがそのすそぬれぬ

せさハ苦るのゝ

一云安麻乃乎等賣我毛能須蘇奴禮濃（ヌ）

安麻能波良布里佐氣見禮婆欲曽布氣爾家流與之惠也
之比等里奴流欲波安氣婆安氣奴等毛

あまのはらふりさけみれば夜そふけにけるよをそあけぬるとも
あけばあけぬとも

右一首旋頭歌也

和多都美能於伎都奈波能里久流等伎登伊毛我麻都良
年月者倍爾都追

わたつみのおきつなはのりくるときといもがまつらんつきとへにつゝ
ちはのゝはゝそのゝとりはそれのゝへにつゝ（ヘニ）とはゝそのゝとを
そくくるしいくん者とせり

之可能宇良爾伊射里須流安麻安氣久禮婆宇良末許具
良之可治能於等伎許由

しかのうらにいざりするあまあけくれば浦まこぐらしかぢのおときこゆ
あけくれば浦まこぐらしかぢのおときこゆ

伊毋乎於毛比伊能禰良延奴爾安可等吉能安左宜理其
閉理可里我禰曽奈久

いもとおもひいのねらえぬよあのときのあさぎりごもりかりごねでなく
良の上補をを本禮ふ侍れ、ねらえぬふハねられぬもと
由布佐禮婆安伎可是左牟思和伎毋故我等伎安良比其
呂毋由伎豆波也伎牟
ゆふされば あきかぜさむし やぎもこの ときあらひごろも ゆきてさやきん
ときあらいごろもハ解洗衣
和我多妣波比左思久安良思許能安我家流伊毛我許呂毋
能阿可都久見禮婆
わがたびハひさしくあらしこのあかつくるいもがころもの あづくみれば
このあづきをハ此我家るようこ、味づれとちふまくもと、ものを指なるとも
ア、くなの久ーきをもりもぐ毛サ抜とひで麻多妣ふちあぬ衣のもがきを
ーえよあうづきみろとうてあんさ

敵ヲ敵ニ誤

到筑前國志麻郡之韓亭(カラウヒヤニ)船泊經三日於時夜月之光皎
皎流照奄對此華旅情悽噎各陳心緒聊以裁歌六首
和名抄筑前志摩郡韓良、華の字上物の字仮なるこの字ふし物為と有
於保伎美能等保能美可度登於毛敝禮杼氣奈我久之安
禮婆古非爾家流可毋
わたほきみのとほのみかどおもへれば けながくしあれば こひまさるかも
遠のみかどハ筑紫ハ大宰をさしていふ、日久しく坐れば古の妻を
右一首大使
多妣爾安禮杼欲流波大等毛之乎流和禮乎也未爾也伊
毛我古非都追安流良牟
たびにあれどよるハひとりをるわれを やみやいもがこひてあるらん
和ハ我なれど君ハ妹とあるを留れる妹ハ門に恋てやあらんと

右一首大判官

可良等麻里能許乃宇良奈美多多奴日者安禮杼母伊敝
爾古非奴日者奈之

かくどまのこのうらなみたたぬひはあれどいつもこひぬひはなし

かくどまとは大よいつる難波之又回国早良郡能解乃計〜和名抄さゐれば今の能許八能計の浦
ちんうく世ゝ朝野群載中右記および能古島〜あれば志賀島〜ゑべし、能許乃浦氏物語
むのづくしに、かくどまのうらかへりとおもふこゝろ、撰集の詞にかつこひこそあれかくど
どまいづくなのゝ人のゆくへしといふは、こゝに佐賀郡の地名をいふ、
あまの海人はなれと妻のこゝ姉をこひしなよ同じ古集にるがちるさごのうら風
ぬれはあれどもとこひぬはなし〜いふもとゝもせるゝ

奴婆多麻乃欲和多流月爾安良麻世婆伊敝奈流伊毛爾
安比見許麻之乎

ぬばたまのよわたるつきにあらませばいへなるいもをあひてこまもを

あひてはあらんとゝ

比左可多能月者見利多里伊乃麻奈久安麻能伊射里波
等毛之安敝里見由

ひさかたのつきはてゝあたりとまちあくあまのいざりはともみゆ

とゝ〜あてゝ八月の光と海人の見あるゝ

可是布氣婆於吉都思良奈美可之故美等能許能等麻里
爾安麻多欲曽奴流

かぜふけばおきつしらなみかしこみとのこのとまりにあまくよぞぬる

引津亭舶泊之作歌七首 之の下夜或八時の字を脱せり、門津八筑紫

久左麻久良多婢乎久流之美故非乎禮婆可也能山邊爾
草乎思香奈久毛

くとあくらたびをくるみこひをれば かやのやまべふさをこのあくも

筑前志摩郡可也山、と訳山、といふこと国人貝原篤信いふ

於吉都奈美多可久多都日爾安敝利伎等美夜古能比等

波伎吉豆家年可母

おきつもみたのくたつひよあつきとみやこのひとやきてけんかも

ほとゝぎすこうるひふあひりるとゝ京の人はゆくゝやいふ

右二首大判官

安麻等夫也可里乎都可比爾衣豆之可母奈良能能彌夜古

爾許登都礙夜良武

あまとぶやかりをつかひにえてしがもなゝのみやこにことつげやらん

ゆきやらんと拾遺集に此歌をとりてくまのゝろこそよみうつ

るとひがごとゝ古事記阿麻ゝ夫ゝ理母都加比曽

秋野乎爾保波須須波疑波佐家禮杼母見流之留思奈之多

婢爾師安禮婆

あきのをにほはすすはぎはさけれどもみるしるしなしたびにあれば

拾遺あれば見るこのひとをとゝ

伊毛乎於毛比伊能禰良延奴爾安伎乃野爾萩乎思香奈伎

都追麻於毛比可禰豆

いもをおもひいのねらえぬにあきのゝにはぎをしかなきつまおもひかねて

妻をなくしる婦のねなり

於保夫禰爾真可治之自奴伎等吉麻都等和禮波於毛倍

杼月曽倍爾家流

おほぶねにまかぢしぬきときまつとわれはおもへどつきぞへにける

波はとゝ結のゝ出るほどゝ月ゝ重ゝ

欲乎奈我美伊能年良延奴爾安之比奇能山妣故等余宋
佐乎思賀奈君母
よをあさみいのねらえぬふあしびきのやまびことよあさそこのふくも
とよあけとよませのなえ
肥前國松浦郡狛島亭舶泊之夜遥望海浪各慟旅心作
歌七首
可嗽里伎呂見年等於毛比之和我夜等能安伎波疑須須
伎知里爾家武可聞
かつきてみんとれをひしわづのやどのあきさぎすき ちりにけんかも
ゆまくくたんと好しりとはなるちをまくらまくらはしりこちとり
右一首秦田麻呂
安宋都知能可未乎許比都都安禮麻多武波夜伎萬世伎

美麻多婆久流思母
あめつちのかみをこひつあれまうんちやきませきみまたばくるしも
こひてはをゐつゝあれは苦
右一首娘子 そはあてのかのかのうとこゝろくはつゝをゐつれたゞ宝玉
舟泊るる所の好きうるべしかるに對る時名を撰とくちをこそ歌といふ
伎美乎於毛比安我古非萬久波安良多麻乃多都追奇其
等爾與久流日毛安良良自
きみをおもひあがこひまくはあらたまのたつきごとにてひあらじ
よるるはもあらじ深はもあらじ一日しなぬるよりをとなの女の
このなるをこゝやく通ふ又はそとなるの歌ひみやあん
秋夜乎奈我美爾可安良武奈曽許已波伊能禰良要奴毛比
等里奴禮婆可

あきのよをふるごゝろのあらんもまでこゝばいのねらえぬもひとりぬるもぞこの
春のもゝくさのもゝくさ指ゆびは花のぞこゝばくゝるひのぞよもるゝこゝにの白のもの
河八幡宮の
多良思比賣御船波豆家年松浦乃宇美伊母我麻都敝伎
月者倍爾都都
たらひめみふねをてんまつるのゝみ
さゝひめ神功皇后とゆきまつるのゝ事なり
でゝゝを、をまてハ徒ゝ
多婢奈禮婆於毛比多要豆毛安里都禮杼伊敝爾安流伊
毛之於母比我奈思母
たびあしばおもひたえてもあつれどいへふあるいとおもひぞ
指ゆびはやもひ絶てゝをゆゞ思ひやゝく世つきゝゝ味ゝの八味ハ

大ホヲ大ホニ誤

ゝもとひのゝ河
安思必寄能山等妣古由留可里我禰婆美也故爾由加波
伊毛爾安比豆許禰
あしきのやまとびこゆるかりがねはみやこふゆのべいもにあひてこね
屋ゝ
ゝ味よ寄てくれ
到壹岐島雪連宅滿忽遇鬼病死去之時作歌一首并短
歌
宅まろと云よ指りゝ人のよるゝ
須賣呂伎能等保能朝廷等可良國爾和多流和我世波伊
ものめろぎのとほのみかどゝからくにわたるわがせは
敝妣等能伊波比麻多禰可多太未可母安夜麻知之家年
ゝ
巫びとのいはひまゝくねうたゝみこのもあやまちゝくん
安吉佐良婆可敝里麻左年等多良知禰能波波爾麻于之

敝ヲ敞ニ誤

あきさらバ。うへつまさんと。たらちねの。はゝれまうし
豆等伎毛須疑。都奇母倍奴禮婆。今日可許牟。明日可蒙許
て。ときしもきつきしへぬれば。けふのうん。あきのもて
武登。伊敞比等波。麻知故布良牟。等保能久爾。伊麻太毛
むと。いへびとも。まちこふらんふ。とほのくに。いまゞも
都可受也。麻等乎毛登保久左可里豆。伊波我禰乃。安良伎
つゝぞ。やまとをも。とほくさかりて。いまゞのの。あらき
之麻禰爾。夜杼里須流君
たまねよ。やどりするきみ

三韓をもみそゝして遠のみぞ。いまゞねの八まゝねぞとの
思ひたゝみ。ゝゝ八ゝ八ゝ抜ゝ
ふおかきみをたまふたゝばふ。ふあうにうんで和賀多ゝ弥由采許牟

（ワガタ、ミユメコト）

波婆ヲ婆波ニ誤

（ソコソメ）
表許曽多ゝ美。いそあわづまハゆあとつるふく。ゝゝ。ゝの俗ゝの抜ゝあ
ちゞく。第ゝて抜ゝ。ゝ。ゝ。

安我孤悲由加牟
よのなかの人つねのくるみとやのれぬらきさみやもとあぐこひゆのん

上二首八世間人情のやさしきひとそのこゝろ八人そのこゝろ之内八人ゆえ立つ表現人ゆえ

右三首挽歌

天地等登毛爾毋我毛等於毛比都都安里家牟毛能乎波
あめつちとともにもがもと思ひつゝありけむものを八
之家也思伊敝乎波奈禮豆奈美能宇倍由奈豆佐比伎爾
しけやしいへをそなれてなみのうへゆなづさひきに
豆安良多麻能月日毛伎倍奴可里我禰毋都藝豆伎奈氣
てあらたまのつきひもきへぬかりがねもつぎてきなけ
婆多良知禰能波波毋都末良毋安佐都由爾毛能須蘇比
ばたらちねのはゝもつまらもあさつゆにものをそひ

万葉十五　三十二

都知由布疑里爾巳呂毛豆奴禮豆左伎久乙毛安流良牟
つちゆふぎりにころもぬれてさきくしもあるらん
其登久伊低見都追麻都良牟母能乎世閉能比登乃奈氣
ごとくいでみつゝまつらんものをよのなかのひとのなげ
伎波安比於毛波奴君爾安禮也母安伎波疑能知良敝流
きハあひおもハぬきみにあれやもあきぎのちらへる
野邊乃波都乎花可里保爾布伎豆久毛婆奈禮等保伎久
のべのはつをかりほふきてくしもなれどほきく
爾敝能都由之毛能佐武伎山邊爾夜杼里世流良牟
ふべのつゆしものさむきやまべにやどりせるらん

[illegible]

撥ヲ敲　三誤

[illegible]
二[illegible]、[illegible]ハひづ[illegible]
らんめくハ、宅海がみちうり[illegible]
もろハ母[illegible]
[illegible]
花のうりふきてハ孫の仮著のるふあくぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

反歌二首

波之家也思都麻毛古杼毛母、多可爾、麻都良年伎美

也之麻我久禮奴流流

はるやしつまもこどりたづぐ〳〵ふまつらんきみやこまおごそれぬる

たゞ〳〵遠くゆもりそ院之出、こまがくれゆる八おのもちの伊よあくき後は

ふやとうもちる[illegible]

毛美知業能知里奈年山爾、夜杼里奴流、君乎麻都良年、比

等之可奈思母

をみぢだのちりたんやまふやどりぬるきみをまつらんひとしかなしも

たちのもちの伊よ、[illegible]

宅海をとこ、人ハ[illegible]

右三首、菖井連子老作挽歌

和多都美能可之故伎美知乎、也須家口母、奈久奈夜美伎

わたつみのかしこきみちを、やすけくもなくなやみき

豆伊麻太爾母毛奈久由可年登由吉能安太能保都手乃
ていまだみしえちくゆのんとゆきのあまのほつての
宇良敝手可多夜伎豆由加武土須流爾伊采能其等美知
ららへをかたやきてゆのんとちらよいめのごとみち
能蘇良治爾和可禮須流伎美

のそらぢにとのしもてるさらく

やちくもさくもさくハ安きんをなやくまくもちくゆのんとハ太ちちうく、ちちうく
安くくあらんとをるもちく表ちくもあんとよくいもめくて多くいあ又ゆきの
あまハ太ち伎のあくくかつてのうくハほつく秀つ手ハ活る活ちく神代紀る
太占をふとまにといる太の活とほのくかむる須くうくハ占合くかくやきて、
安千ハむくーのよ宇良敝才角也伎くいつちうよ須をしめく、麻の肩岩と和
て焼ちてるくいあのごとハ美のあくくちのそらぢくハ道の中ちを死るといて

反歌二首

年可之欲里伊比祁流許等乃可良久爾能可良久毛已許
爾和可禮須留可閑

むのよりいひくることのかくふのくくてふわこれをるこのも
かくゐくをるをるうう寄きをよひすあるうくよあす、ちてかくゐく
いをもかくきをいひかーくを

新羅高敝可伊敝爾可加反流由吉能之麻由加年多登伎
毛於毛比可禰都母

ちくきくこのくくふのかつるゆさのーまゆのんたどさくおもしこのねつも
友ふ列ー結ようれ迷ひて、ちくきくうゆのんもあるゆんのちくもも
おもひ宇くものねつとりちくゐるよゆくの祝といそどーてのるふゆんと
いちうたどきハたどきを同ー

右三首六鯖作挽歌　後紀宝字八年正月正六位上六人部連鯖麻呂

外從五位下を授らしゆ、此人の氏とゝまるべきなり、と奏はいかう

到對馬島淺茅浦船泊之時不得順風經傳五箇日於是

瞻望物華各陳慟心作歌三首

毛母布禰乃波都流對馬能瀬安佐治山志具禮能安米爾毛

美多比爾家里

ちふねのはつるつしまあさぢやましぐれのあめにもみたひにけり

舟泊る津とうみたゝむ山国と後紀津島とあり、かみづしはうみぢを近とあり

安麻射可流比奈爾毛月波豆禮禮杼母伊毛曽等保久波

和可禮伎流家流

あまざかるひなにつきぬれどもいもそとをくはわかれきにける

妹とゝ遠くのさゝ来ぬ八月れば同じ国ゝ山ゝ八月ぐ国ゝをへだてきにける

安伎左禮婆於久都由之毛爾安倍受之豆京師乃山波伊

呂豆伎奴良年

あきされば奥つゆじもにあべずしてみやこのやまはいろづきぬらん

高市郡の山ハ紅葉ぬ、くゝ

竹敷浦船泊之時各陳心緒作歌十八首　後紀第十三對馬

島上郡那竹敷崎とゝゆ

安之比奇能山下比可流毛美知葉能知里能麻河比波計

布仁聞安留香母

あしひきのやまたひかるもみぢばのちりのまがひはけふもあるかも

岩ヒ山ハ山ヒ山ヒ、ひかる紅葉ヒ、ヒ、ヒ、

ここ敬れるさまのおもてるきけるれとそのこえ

右一首大使

多可之伎能母美知子見禮婆和藝毛故我麻多牟等伊比
之等伎曽伎爾家流

たのしきのやみぢをこれば伎ぎてこのまくんといひしときこそきよくる

右一首副使

多可思吉能宇良未能毛美知和禮由伎豆可敝里久流未
低知里許須奈由米

たのしきのうらまのやみぢわれゆきてかつみくるまでちりてをゆめ

絳國に行て還るまでかくのごとくにてあるべしとねごてるこえ

右一首大判官

多可思吉能宇敝可多山者久禮奈為能也之保能伊呂爾

奈里爾家流香聞

たのしきのうへのたやまはくれなゐのやしほのいろふかなゆよくるかも

うくるゆしてけ者見ゆるえゆ

右一首少判官

毛美知婆能知良布山邊由許具布禰能爾保比爾米低豆

伊低豆伎爾家里

もみぢばのちらふやまべゆこぐふねのふほひよりでていでてきふるゆ

ちらふちをぬりしてあるいろをとりふ芝茶の袖をとりとこぐあをいろ

こぐ舟をはるゞ〳〵くよのもえ

多可思吉能多麻毛奈婢可之已藝低奈牟君我美布禰乎

伊都等可麻多牟

たのしきのたまもなびかしこぎでなんきみがみふねをいつとのまくん

右二首對馬娘子名王槻
多麻之家流伎欲吉奈藝佐乎之保美豆婆安可受和禮由
久可反流左爾見牟
たまくるさよあこなぎさとをみてあつぞわれゆくかつるさよみん
ゆきなんすまくらかんとも

右一首大使

安伎也麻能毛美知乎可射之和我乎禮婆宇良之保美知
久伊麻太安可奈久爾
あきやまのもみぢをかざしわがをればうらさびかなくいまだあかなく
殘山のもみぢの花あるあを海は汐の滿まれば毎夕ゆらるゝ

右一首副使

毛能毛布等比等爾波美要緇之多婢毛能思多由故布流

爾都奇曾倍爾家流
ものゝふとひとふみえぐ　さつこびとの　さつゆこふるよつきぞへみくる
　　　

和我袖波多毛登等保里豆奴禮奴等母故非和須禮我比
等良受波由可自
わごろでがたりとほめてぬれぬらしてひわとれのひとごとばゆのご
　　　

安麻久毛能多由多比久禮婆九月能毛美知能山毛宇都
呂比爾家里
あまぐもの たゆたひてしば なごのづさの みなとのやまも うつろひにけり
十二月十日の夕べ、ゆきしやきんあるべきよしかねてより、
きみどのの御ハ仕度あるべき、御のぶもとより数ひとつ六あとにて
多婢爾豆毛母奈久波也許登和伎毛故我年須比思比毛
波奈禮爾家流香聞
たびにても なくなくやとと わぎてこの ひもとけ ぬれば なるのも
喪ちゝ ゆりまれとゝ
回来筑紫海路入京到播磨國家島之時作歌五首
家路へ入よしこゝ
伊敝之麻波奈爾許曽安里家禮宇奈波良乎安我古非伎

延ヲ延二誤

都流伊毛母安良奈久爾
いへにては もはもなくて あり久れば ゆくすゑ なしと
海のなかの みなとの ハ多のこゝろ くるしき ものを
久左麻久良多婢爾比左之久安良米也等伊毛爾伊比之
乎等之能倍奴良久
くさまくら たびにひさしく あらめやと いもに いひしを とゝのへ ぬらく
まことに 海のなかの なれば なにとも なりよ とゝのへ ぬらく
和伎毛故乎由伎豆波也美武安波治之麻久毛為爾見延
奴伊敝都久良之母
わぎもこを ゆきつはやみむ あはじまく もまくも
よそに おきて やすきもの にぞ てとよみ いへづゝ もゆを
奴婆多麻能欲安可之母布禰波許藝由可奈美都能波麻

未都麻知故非奴良武
ぬばたまのよるのもふねはこぎゆくをみつのはまつつまちこひぬらん
賀茂ぎゝ舟こぎゆくを見いさるゝもやまとへ大伴のこつの浦おもひ
こいぬらん
大伴乃美津能等麻里爾布禰波豆豆多都多能山乎伊都
可故延伊加武
おほとものみつのとまりふねをてたつるのやまをいつのこえいかん
たゝりの地は、雅俊のきはまるいつの舟はく之里、卿りんこと
中臣朝臣宅守與狹野茅上娘子贈答歌　目録ハ中臣朝臣
宅守要藏紀女嬢狹野茅上娘子之時、勅斷流罪配越前國也、於是夫婦相
嘆易別難會各陳情贈答六十三首、ハ此間何こゝ脱ヶ、第一本第
ハ脱る、目録ハ同じ、後紀天平十二年六月十五日大赦、中臣宅守等不在

赦限、天平宝字元年正月後六位上中臣朝臣宅守従五位下ヲ授ケ、乃ち
安之比奇能夜麻治古延牟等須流君乎許許呂爾毛知豆
夜須家久母奈之
あしひきのやまぢこえんとするきみをこゝろにもちてやすけくもなし
君の御ゆくをんなどもゝのんるあれば安うくぬらん
君我由久道乃奈我氐乎久里多多禰也伎保呂煩散牟安
米能火毛我母
きみがゆくみちのながてをくりたゝねやきほろぼさんあめのひもがも
ながて　ながき道のきをとゝ　をねいつる　くりたゝねのくりハたゞりて、
たゞねハたゞるゝとりて　因ての活用ハ　ハ　をとゝ　ゞりよせく　焼失ん
天の火もあれかしとうん
和我世故之氣太之麻可良婆思漏多倍乃蘇低乎布良左

禰見都追志努波牟
わがせこがけごもまのうばたまのそでとりかへしみつゝまぬぞん
久ごゝ[illegible]ゝさねゝふれとをりうん
已能許呂波古非都追毋安良牟多麻久之氣安氣呂乎知欲
利須辨奈可流倍思
このごろはひつもあらんたまくしげあけくをちよりあれべかこのるべし
まぐりもれぬほどゝ[illegible]てもあんを[illegible]るおてよう[illegible]はせんうるちうんを
用歌ニ臨別娘子悲嘆作哥ニ
右四首娘子臨別作歌
知里比治能可受爾母安良奴和禮由恵爾於毛比和夫良
牟伊毋我可奈思佐
ちりひぢのかずにもあらぬわれゆゑにおもひわぶらんいもぞかなしき
上八座上の[illegible]

安乎爾與之奈良能於保知波由吉余家杼許能山道波由
伎安之可里家利
あをによしならのおほちはゆきよけどこのやまみちはゆきあしかりけり
[illegible]
むくりをし
宇流波之等安我毛布伊毛乎於毛比都追由氣婆可母等
奈由伎安思可流良武
うるはしとあがもふいもをおもひつゝゆけばかもゆきあしからん
あがをゝいもハ[illegible]
三の白のとりてんびゝどの[illegible]
[illegible]

加思故美等能良受安里思爭美故之治能多武氣爾多知
豆伊毛我名能里都
かしこみとのらでありしをとみこしぢのたむけはたちていけるのうつ
うくまるるくれるをれば姉妹ともこそ出さざりしを山ふるあて
知をうつるかくれ姉がゐをつるもとに日本武のみことのあづまはやと
のくまひくまひたむけはをしくの坂をなくのこむけとのしをを坂山と
よ伊めといてるかく越海へ入心のこころばをいつり、妻はをさるをたらばと
以ハかとるゐるをづーといつり

右四首中臣朝臣宅守上道作歌

於毛布恵爾安布毛能奈良婆之未思久毛伊母我目可禮
豆安禮乎良米也母
おもふをよあふものならばさまでいくるをめかれてあれをらめ

おもふをふが思ふなるべ、ものまたあるべくあるべくぶこがるくも妹を敬れ
て妻居んやといふこと

安可禰佐須比流波毛能母比奴婆多麻乃欲流波須我良
爾禰能未之奈加由
あかねさすひるはものもひぬばたまのよるはすがらにねのみしなかゆ
和伎毛故我可多美能許呂母奈可里世婆奈爾毛能母氐
加伊能知都我麻之
わぎもこがかたみのころもなかりせばなにものもてこいのちつがま
等保伎山世伎毛故要伎奴伊麻左良爾安布倍伎與之能
奈伎我佐夫之佐
とほきやまさきもこえきぬいまさらにあふべきよしのなきがさぶしさ
一云左必之佐　さびしさ同不怜不樂之也

於毛波受母麻許等安里衣牟也左奴流欲能伊采爾毛伊
母我美延射良奈久爾
おもはどし まつしあうそんやさぬるよのいめふしいやぢみえぎしふく
一三のるへおもはどして をほんやといふく又おもひ伊ぎつるぎしく初るはおもひぞよと
まのあるよはぬく白花ともとぐ一ぎ花のうばこのるはちろんとはせりとぬしく
ろえぎしろくあのあくはつねあくはろんぐるふしといふく岩千四をつくたの三ぎき
このよはをうるのめゆうちとろんさねザラナクニとりて さはぎ浮ふく
寝ぎるふくるのみえやらちくふとよはれさるはかせりつるよのしぎ
等保久安禮婆二日一夜毛於母波受豆安流良牟母能等
於毛保之賣須奈
とほくあれはひとひひよはおもぼてあるらんあとおもろしめもふ
世ぎて ちぎきねとおびられとん

比等余里波伊毛曽母安之伎故非毛奈久安良末思毛能
乎於毛波之采都追
ひとよりはいもぞもあしきこひもなくあらまものをおもはしめつる
人よりは他人よりはく妹ぞうくはは我は恋るといふもものてあんをかく
おもはるはの妹のあきんといふく
於毛比都追奴禮婆可毛等奈奴婆多麻能比等欲毛意知
受伊采爾之見由流
おもひつぬれぞのもとぬぬぐまのひとよおちずいめふーみゆる
ちひてめれぞこのはちひく寝るかみのふのといふく
可久婆可里古非牟等可禰豆之良末世婆伊毛乎婆美受
曽安流倍久安里家留
かくばかりこひんとかねてちらませばいもとはみずぞあるべくあるる

安采都知能可未奈伎毛能爾安良婆許曽安我毛布伊毛
爾安波受思仁世采
あらべつものかみちきものあらばこそあのかはいもふありぞさふせめ
　　　

和伎毛故爾古布流爾安禮波多麻吉波流美自可伎伊能
知毛乎之家久母奈思
わぎもこをふるまあれば たまきはる みじのさいのちをしらくもあり

こゝをるか我老こ

右十四首中臣朝臣宅守　同流ヲ配所ニ遣ル作歌ト云

伊能知安良婆安布許登母安良牟和我由恵爾波大奈於
毛比曽伊能知多爾敝波
いのちあらば あふこともあらん わがゆゑに なげかひそいのちぐふへば

はくはまこといのちのことをいふ　思ひ　命ヲ生活なりて

神ヲとゝちゝこゝいふこ

比等能宇宇流田者宇恵麻佐受伊麻左良爾久爾和可禮
之豆安禮波伊可爾勢武

ひとのうゑたはうゑまさずいまさらに くにはかれいかにせむ

人の業ヲ植る田ヲ植ずして国遠くなまくば其ハ何ヲかせむ

あらんとこ

和我屋度能麻都能佐葉見都都安禮麻多無波夜可反里麻
世古非之奈奴刀爾
わがやどの まつのさゑみつつ あれまつん ちやかへりませ こひしなぬとに

松ヲ待ヲかゝくゝ　ヲ　ヲ　ヲ

比等久爾爾伎美乎伊麻勢豆伊都麻豆可安我故非乎良
年等伎乃之良奈久
ひとゝふきみをいませていつまでのわがこひをらんときのゝちなく
いませてハ往まさせてく所のゝちなくハきん世のきゝれぬゝ
安宋都知乃曾許比能宇良爾安我其等久伎美爾故布良
年比等波左禰安良自
あめつちのそこひのうらゝあがごとくきみよりほかにこひをあらじ
そこひハ海中山のそこきわのこと也ゝつるそきてる国ゝそきハ祝詞ゝ国
の退立限とゝ也ゝ天地の涯りをゝそこひのひハ方の後也ゝ
そこ俗ゝとゝ也ゝ
之呂多倍能安我之多其呂母宇思奈波受毛豆禮和我世
故多大爾安布麻低爾

ちろたへのあがのたてごろもうしなはずそこたゞかあはまじよ
下よりねるを下衣とゝ也ゝ
波流流乃日能宇良我奈之伎爾於久禮爲豆君爾古非都都
宇都之家宋也母
はるのひのうらがなしきにおくれゐてきみをこひつゝうつしけめやも
まのゝのもきをおくれゐてゝ
でうつゝなあやもとゝよみけめハかゝめの約ゝ
安波年日能可多美爾世與等多和也女能於毛比美多禮
豆奴敝流許呂母曾
あをんひのかゝみをせよとたゞやめのおもひゝでぬるころもぞ
をんなはまでのことたゞやめハたゞやめゝ同ゝ衣を物也ゝ
右九首娘子

過所奈之爾世伎等婢古由流保等登藝須多我子爾毛夜
麻受可欲波牟
ふみもてせきとびとゆるほとくぎて　やまとでかよろん
過所ハ公式令関市令ヨリ見ヘタル関ヲトル人ノ手ノフミヲテ今ノ飛
トリフノ文今ヲヨクヨク知ベシ、それバ〳〵ハフミヲヨミヲヨムタヂチフ言フ
てよむ〳〵きく〳〵多我子爾毛ヲテヤあまるごろもと例られどよもし
はものやうぎまのくハ二字なぞのヨ従ヲトヽゆ、魚ハ和名抄の誤ヲ爾毛
の下可毛の二字脱ヲ、後〳〵バわゴみもこのもと例べしと為いられきん
ハ郭公ハるホトヽギスを越れバとるを身ものみをヨ関越ク
通ちんとく
宇流波之等安我毛布伊毛乎山川乎奈可爾敝奈里氏夜
須家久毛奈之

うるハ〳〵とあゴのもふいもをやまのハをとなのふへなのてやちくもの
うるハ〳〵ハ雲のうるとかくくぐりと同じ例
牟可比為豆一日毛於知受見之可抒母伊等波奴伊毛乎
都奇和多流麻豆
むのひるてひとひもおちずみしのゴもいとをつきわたるまで
いとをぬハあのぞるゝ月渉るまでぬとをつきわたるまで
安我未許曽世伎夜麻故要氐許已爾安良栄許已呂波伊
毛爾與里爾之母能乎
あゴみをそせきやまこえてこふあらめころハいもんとふしをのを
砥波の関山ちゴ
佐須太氣能大宮人者伊麻毛可母比等奈夫理能未許能
美多流良武

ささてくみのおほみやびとハいまさのもひとまぶのこのみたるらん
ささくみの枕詞、姫よごてるゆよりくに元さくれ　とそまぶるなるべし、遊仙窟
劇をひとまぶのとよまり

一云伊麻左倍也　この歌

多知可敝里奈氣抒毛安禮波之流思奈美於毛比和夫禮
豆奴流欲之曽於保伎
たちかへりなげもあれハまるしなみおもひわぶれくぬるよりぞおもき
ちかくりかくちかくしかれハうくふれとなるん
左奴流欲波於保久安禮抒毛母能毛波受夜須久奴流欲波
佐禰奈伎伎母能乎
さぬるよハおほくあれどしものもとぞやすくぬるよハさねおきものを
ぬる夜ハるくれど、ものもとぞ安く寝る夜ハさねおきものを

與能奈可能都年能已等和利可久左麻爾奈里伎爾家良
之須恵之多禰可良
よのなかのつねのことわりかくさまになりきるけしらすたねこそ
世間の道理ハ如是なるなること也　たねこそ
てうくく故之遠つ祖の尊きしを商長く國家とをりこそ
爾いそれき、道ある之ちるつ左ねのくくんて事ハの枝と葉と枝とを
くくもいてりそれハくくハ已ごのちくる業因みりくくとよくくの世
ちまのぬたれハもえるるで誘ちもいてりぬ法のくく絶たるべし
和伎毛故爾安布左可山乎故要豆伎豆奈伎都都乎禮抒
安布余思毛奈之
わぎもこよあふさかのやまをこえてきてなきつるれどあふよしもなし
おつさかのくくれんで遠くのちきくこと

多婢等伊倍婆許登爾曽夜須伎須敝毛奈久久流思伎多
婢毛許等爾麻左尓也母
たびとへばことゝまでやもきたびしこゝ保さめやし
此上二首ハ上ノ方ニ有ル歌ノ中ニ居ルヲ今カヽレタリ
あくれつゝ
山川乎奈可爾敝奈里豆等保久登母許巳呂乎知可久於
毛保世和伎母
やまかはをなかにへなりてとほくとも心をちかくおもほせわぎも
此二首ハ上ノ方ニ有ル歌ノ中ニ居ルヲ今カヽレタリ
麻蘇可我美可氣呂之奴敝等麻都里太須可多美乃母能
乎比等爾之賣須太尓

まそかがみのけかゝみのあをひとふたつなくしたなし
まそ鏡ハ上ノ方ニ有ル歌ノ中ニ居ルヲ今カヽレタリ
下但シ結ノ字ハ結てとりよまく後ノ方ニ見ヘシ次ノ二ツノ
ヤウニ結ノ字ハ結てとりよまく後ノ方ニ見ヘシ太ノ下須ハ類ノ字ノ誤ナルベシ
河ゝまづ子ハ別ノ所ノまづ子ハ紀ノ奉遣ヲたてまだすと
うれしくゝ人ゝ見ルヲ見てれとらつゝ
宇流波之等於毛比之於毛婆波也多婢毛爾由比都氣氣毛
知豆夜麻受之努波世
うるはしとおもひしおもへば去ればもゆひつけもてやまずしぬばせ
右ノ方ノ歌ノ中ニ居ルヲ今カヽレタリ
右十三首中臣朝臣宅守
多麻之比波安之多由布敝爾多麻布禮杼安我年禰伊多

之古非能之氣吉爾
たまぼこあたゆべはたまもれどあぐのぬいたしこしの志ぐさの
男の紙をば考ふるそくるものそこく考ふあぐのものみくま弱ひくまそしが
ちくのかふめそげたまろ
已能許呂波君乎於毛布等須敝毛奈伎古非能未之都都
禰能未之曽奈久
このごろきみとおもふすべもなくこしのみしぬのみしぞなく
まちとかりまくこく
奴婆多麻乃欲流見之君乎安久流安之多安波受麻爾之
豆伊麻曽久夜思吉
ぬばたまのよるみしきみをあくるあしたあぐでまれていまぞくやしき
おもひけるくまとくりまくこく考ふまハ助辭なくあぐでもてこと

いつかこりぞまとりまくこく同じくこそまくまハ助辭なれバ例とまぐ
安治麻野爾屋杼禮流君我可反里許武等伎能牟可倍乎
伊都等可麻多武
あぢまぬふやどれるきみがかへりこんときのむとをいつとのまくむ
和名抄越前今立郡味真阿知ま
宮人能夜須伊毛禰受豆家布家布等麻都良武毛能乎美
要奴君可閑
みやびとのやすいねずくけふくとまつらんこのをみるあきみのも
宮人といふハ宮守の友をまたその上人をいふのこぬこそこんとまるこ
ふ大宮人といふるは考ふ又或く宮ハ家の子の説ちくんといふり家人と
あるこんこおぐやこ
可敝里家流比等伎多禮里等伊比也可婆保登保登之爾

吉君香登於毛比豆
かつらくるひとときこれとといひしのぶほとゝぎすみのとはひて
人は使をりつゝほらくはまとゝ吾さとの方復將変八方殆は寄七ほゝ
ほとゝぎすふる分とゝれぬとよりかそてふいつゝ吉ふきハ死みきこゝ
なりゆ妹ひく魂まどひきとつゝ
君我年多由可麻乞毛能乎於奈自許等於久禮豆乎禮杼
與伎許等毛奈乞
きみのまゝゆのまゝものをおもゝどおくれてをれどよきこともあゝ
君とたふゝおもゝてハ本のゝくとつゝ君と為ハいとれき物ゝるものとたゝゝ
朝等ゝ濁酒を思べゝ吹ふゝき許等ゝ吉ゝと思ひれば
許ハ清ゝきゝ酒ゝ吉ゝ君ゝ流ゝれゝ吉ゝ思ひ、おゝれをゝ思ひ
事ゝゝおゝれゝとゝゝとゝゝゝ

以ぬるよりの家右馬寮のをとこ　とハ外人　年十四　かちうきと外ト
たてめやもりもよりも

右二首中臣朝臣宅守　目録ニ宅守の下更贈答ト云

伎能布家布伎美爾安波受且須流須敝能多度伎乎之良
爾禰能未之曽奈久
きのふけふきみにあはずくもたるすべのたどきをしらにねのみしなく
もるすべハなくせんすべしらにハたどきを
也　物名ハ書名ヘシ

之路多倍乃阿我許呂毛且乎登里母知且伊波敝和我勢
古多太爾安布末低爾
しろたへのあがころもをとりもちていはへわがせこたにあふまでに
飛鳥の衣をとりもちて祈齋るなり　この歌ハ中臣のあそんよりあづまの方へ

和我夜度乃波奈多知婆奈波伊多都良爾知利可須具良
年見流比等奈思爾
わがやどのはなたちばなはいつらにちりかすぐらんみるひとなしに
古非之奈婆古非毛之禰等也保等登藝須毛能毛布等伎
爾伎奈吉等余年流
こひしなばこひもしねとやほとときすきなきとよめる
　　　

たびふしてものもとめにほとゝぎすかたちをなさそあづこひまさる
安麻其毛理毛能母布等伎爾保等登藝須和我須武佐刀
爾伎奈伎等余母須
あまごかりそのかふとさをほとゝぎすわづらひむさとにはまさとよみす
美八重さりかゆゝしみ面でこちるゝよりゆ同じく面ゆ居る之
多婢爾之豆伊毛爾古布禮婆保登等伎須和我須武佐刀
爾許欲奈伎和多流
たびなりていもにこれば保とゝぎすわづらひむさとにてよなきそる
こよハ集中後此間ときてこゆとよある不同じ
許已呂奈伎登里爾曽安利家流保登等藝須毛能毛布等
伎爾奈久倍吉毛能可
くろもきさるものもとめにはくぶさるものの

保登等藝須安比太之麻思於家奈我奈家婆安我毛布許
已呂伊多母須敝奈之
ほとゝぎすあひだしまゝおけるがなけばあがもところこまぐる
同歌おけへりこゝハ基さし

右七首中臣朝臣宅守寄花鳥陳思作歌　此七そハ女ゝ歌

たるゝまあらそくるをゝとこるる

萬葉集卷第十五

万解子五終　五十四

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan